

令和5年度佐世保市『赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業』中学生追跡調査報告書

門田 理世(西南学院大学大学院)

増田 吹子(西南学院大学大学院生・尚絅大学)

土田 珠紀(西南学院早緑子供の園)

江田 菜穂子(西南学院大学大学院生)

中ノ子 寿子(西南学院大学大学院生・尚絅大学短期大学部)

佐世保市幼児教育センター

調査結果概要【本文中の参照箇所】

1. 中学生が考える赤ちゃんとのふれあいの意義

- アンケートに回答した中学生の内 78.8%が赤ちゃんとのふれあいたいと考えている。赤ちゃんとのふれあいたいと思う理由を分析したところ、赤ちゃんに対する好意をもち、ふれあいに心地よさを感じるだけでなく、赤ちゃんとのふれあいに希少性や有用性があると認識していることがわかった。【p.3】
- 赤ちゃんとのふれあいに意欲的でないながらも、将来赤ちゃんとのふれあう機会がある可能性を考えたり、赤ちゃんとのふれあいを命の尊さを再認識できる機会と捉えたりして、赤ちゃんとのふれあうことは大切だと考えている中学生もいる。【p.4】
- 赤ちゃんとのふれあうことを大切だと考えている中学生は、回答者の85.0%を占めており、赤ちゃんとのふれあいは将来役に立つものであり、自分にとって学びや経験になると捉えている。【p.5-6】

2. ふれあいの回数が増えることで、中学生の気持ちが変化する可能性

- 中学生の16.3%が赤ちゃんとのふれあいたくない、15.0%が赤ちゃんとのふれあうことを大切ではないと考えている。【p.3-4】
- 『令和5年度佐世保市赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業アンケート調査に関する報告書』において、複数回の事業に参加することで赤ちゃんとのふれあいに対する気持ちが前向きになった小学生の事例を報告している。このことから、事業を複数回経験することで、中学生の赤ちゃんとのふれあいに対する気持ちが好転することも考えられる。【p.7-8】

3. 赤ちゃんの実際の姿を知ることの価値

- 中学生の多くは、それまでに見聞きしたこと等の間接体験を通して、子育ては大変なものだというイメージをもっている。このイメージの払しょくや子育てに対する肯定的なイメージの醸成は社会的な課題であるといえる。【p.6-7】

調査結果より得られた佐世保市への提言【本文中の参照箇所】

1. 『赤ちゃんふれあい事業』の範囲の拡大

- 多くの中学生が、赤ちゃんとのふれあいに意義があると感じている【p.3】。今後は、小学生を対象とした事業で得られた成果と中学生に対する調査で得られた知見を基に、小学校以外の学校種への事業の拡大が望まれる。

2. 長期的な事業・調査の継続

- 調査結果から、赤ちゃんとのふれあいに意欲的でない中学生や、子育てに肯定的な気持ちをもっていない中学生の存在が明らかになったが【p.4、6-7】、その背景は現時点では明らかになっていない。中学生がこのような気持ちをもつ背景を検証するためにも、事業や調査を長期的に継続することが求められる。

I. はじめに

佐世保市では平成27年度より佐世保市幼児教育センターが運営主体となって『赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業』(以下、事業)を実施しており、西南学院大学大学院門田研究室(研究代表:門田理世)では平成29年度から、参加した赤ちゃんの保護者と小学生にとって事業での経験がどのような意義をもつかということについて調査・検証してきた。事業の目的であるいのちの大切さや尊さ、不思議さを感じることや、思いやりの気持ちを育てること等の心の涵養については、長期的な視点でその育ちを検証する必要がある。そこで、小学5~6年生の時に

事業に参加し、赤ちゃんやその保護者とふれあう経験をした子ども達が、中学3年生の時点で赤ちゃんや子育てにどのような意識・印象をもっているのか、小学生時代に赤ちゃんや保護者とふれあった経験をどのように受け止めているのかを検証する追跡調査を令和4年度より行っている。

本報告書では、令和5年度の佐世保市立山澄中学校3年生を対象として行った追跡調査の内、アンケート調査に関する分析結果を報告する。

Ⅱ. 調査の概要と分析手法

1. 調査対象

- ① アンケート調査…令和元年度の事業に参加した当時の小学5年生（佐世保市立白南風小学校）と令和2年度の事業に参加した当時の小学6年生（佐世保市立木風小学校・佐世保市立潮見小学校）を含む、佐世保市立山澄中学校3年生80名
- ② インタビュー調査…アンケート調査の紙面上で、インタビュー調査への協力を承諾した10名

2. 調査日時

- ① アンケート調査…令和5年9月19日
- ② インタビュー調査…令和5年11月16日16:00～17:00

3. 分析手法

アンケート調査の中で選択肢による回答は集計をし、自由記述による回答は意味内容ごとに区切ってコードを付し、抽象度がより高いコード・カテゴリに分類していく質的分析を行った¹⁾。なお、1つの回答に複数の意味単位が含まれる場合は、記述に込められた回答者の思いを可能な限り汲み取るため、複数のオープン・コードを生成している。以下、オープン・コードを< >、焦点コードを[]、カテゴリを【 】、アンケート本文での質問および選択肢を《 》、原文の回答を「 」、回答の件数やコードの事例数を（ ）で示す。

Ⅲ. 調査結果及び考察

1. 回答者の属性

本報告書では、山澄中学校3年生（以下、中学生）在籍98名の内、アンケートによる回答を得られた80名を対象として分析を行う。

アンケートに回答した80名の内、35名が男性、44名が女性、1名が無回答である（図1）。きょうだいについて尋ねると、1人っ子が9名、きょうだいがいる長子25名、末子32名、中間子12名、回答不備2名（回答を無効とした）であった（図2）。出身小学校を尋ねる質問に対しては、事業参加校である白南風、木風、潮見小学校の出身者が77

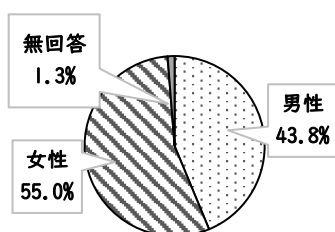


図1. 中学生の男女比

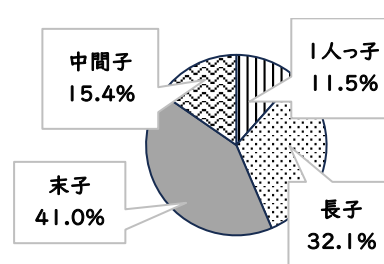


図2. きょうだいの中の出生順位

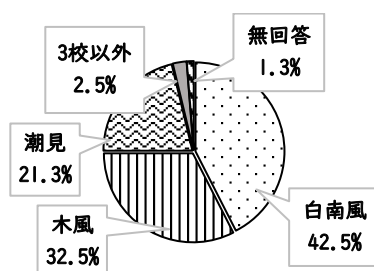


図3. 出身小学校の割合

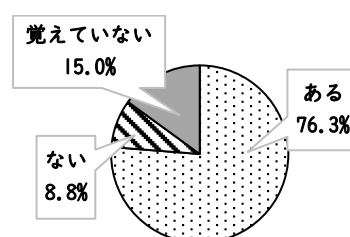


図4. 赤ちゃんとの接触経験の有無

名(96.3%)を占め、この3校以外の小学校の出身者が3名(2.5%)、無回答が1名(1.3%)である(図3)。《これまでの人生で赤ちゃんに触ったり、赤ちゃんに関わったりする機会があったか》を尋ねたところ、《ある》が61名(76.3%)、《ない》が7名(8.8%)、《覚えていない》が12名(15.0%)であった(図4)。《ある》と回答した中学生に《どのような時にどれくらい赤ちゃんといふれあう機会があったのか》を自由記述で尋ねると、家庭で自分の弟や妹、親戚の子どもと、あるいは近所の子どもや学童等で、ほぼ毎日や週2～3回等の日常的なふれあいや年に数回の機会にという回答が得られ、多種多様な接触経験があった。

2. アンケートの結果及び考察

(1) 赤ちゃんといふれあうことに対して中学生が感じる意義

中学生に《赤ちゃんといふれあう機会があったとしたら、その赤ちゃんにいふれあってみたいと思うか》を尋ねたところ、全体の62.5%が《ふれあいたい》、16.3%が《どちらかといえばふれあいたい》と回答した(表1)。その《赤ちゃんといふれあいたいと思った理由》の自由記述を分析したところ、4のカテゴリ、9の焦点コード、17のオープン・コードに分類された(表2)。

ふれあいたいと思う理由は、【赤ちゃんに対する好意・興味】【赤ちゃんとのふれあいの希少性・有用性】【赤ちゃんとのふれあいに対する前向きな感情】【赤ちゃんといふれあうことへの意欲と不安】に大別された。このことから、赤ちゃんとのふれあいを希望している約8割の中学生は、赤ちゃんに好意的な印象をもっており、ふれあうことに対して心地よさや意欲を感じていることがわかる。また、日頃赤ちゃんといふれあう機会がないことから、赤ちゃんといふれあうことに対する希少性や有用性を感じており、中学生は多様な角度から赤ちゃんといふれあうことの意義を認識しているといえる。

表1. 機会があれば赤ちゃんといふれあいたい

選択肢	回答数(割合)
ふれあいたい	50(62.5%)
どちらかといえばふれあいたい	13(16.3%)
どちらかといえばふれあいたくない	9(11.3%)
ふれあいたくない	4(5.0%)
わからない	4(5.0%)

表2. 機会があれば赤ちゃんといふれあいたい、《どちらかといえばふれあいたい》と考えている理由

※オープン・コードは一部抜粋

【カテゴリ】	【焦点コード】	<オープン・コード>
赤ちゃんに対する好意・興味(48)	赤ちゃんがかわいくて好きだから(38)	赤ちゃんがかわいくから(31) 赤ちゃんや小さい子が好きだから(7)
	赤ちゃんに対する興味があるから(7)	赤ちゃんについて知りたいことや興味があるから(6) 授業で習ったことがあるから(1)
	赤ちゃんの特性に魅力を感じているから(3)	柔らかいから(1) 元気があるから(1)等
赤ちゃんとのふれあいの希少性・有用性(22)	赤ちゃんといふれあうのは貴重な機会だから(14)	日頃赤ちゃんといふれあう機会がないから(14)
	赤ちゃんとのふれあいが自分の役に立ったり、学びになったりするから(8)	将来の役に立つから(5) 学びを得られるから(2) 赤ちゃんに関わる人の大変さを知りたいから(1)等
赤ちゃんとのふれあいに対する前向きな感情(16)	赤ちゃんといふれあうことが心地よいから(12)	赤ちゃんといふれあうことで癒されるから(9) 赤ちゃんといふれあうことは楽しいから(3)
	赤ちゃんといふれあう時にしたいことがあるから(4)	赤ちゃんのお世話をしたいから(2) 一緒に遊びたいから(2)
赤ちゃんといふれあうことへの意欲と不安(3)	赤ちゃんといふれあうことへの意欲と不安(2)	ふれあいたいがかわいそう(1) 上手くふれあえないかもしれないから少しだけふれあいたい(1)
	赤ちゃんへの好意といふれあうことへの不安(1)	泣かせたら困るかわいそうから(1)

表3. 機会があっても今後赤ちゃんとふれあいたくない、どちらかといえばふれあいたくないと考えている理由

【カテゴリ】	【焦点コード】	＜オープン・コード＞
赤ちゃんへの苦手意識・忌避感 (7)	赤ちゃんのことを苦手と感じているから(3)	赤ちゃんが苦手だから(3)
	赤ちゃんがあまり好きでないから(2)	赤ちゃんがあまり好きではないから(2)
	衛生的な感覚が受け入れられないから(1)	よだれが嫌だから(1)
	赤ちゃんを面倒だと感じているから(1)	赤ちゃんが面倒くさそうだから(1)
赤ちゃんとのふれあうことへの 怖さや不安感(6)	赤ちゃんとのふれあうことに怖さを感じているから(5)	赤ちゃんを落としたり、傷つけたりすることが怖いから(5)
	赤ちゃんとの接し方が分からないから(1)	赤ちゃんとの接し方が分からないから(1)

一方、同様の質問に対して、「どちらかといえばふれあいたくない」(9名)、「ふれあいたくない」(4名)と回答した13名(表1参照)は、その理由として【赤ちゃんへの苦手意識・忌避感】【赤ちゃんとのふれあうことへの不安】を挙げている(表3)。具体的には、「子供があまり好きじゃないから」「どうしても苦手だから」といった赤ちゃんという存在自体に対する苦手意識・忌避感と、「落とすことが怖い」「赤ちゃんへの接し方が分からない」といった赤ちゃんとの関わりに対する不安が窺える回答が見られた。

赤ちゃんとのふれあいに意欲的でない13名のうち7名は、「赤ちゃんとのふれあうことは、あなたにとって大切なことか」と尋ねられた際、「どちらかといえば大切でない」「大切でない」を選択しており、赤ちゃんとのふれあいに対して一貫して意欲を持ったり価値を感じたりしていないことが窺える。これらの中学生の多くは「子供があまり好きじゃないから」「よだれをたらされると嫌」等、赤ちゃんという存在に対する拒否感を抱いている。つまり、赤ちゃん自体に対する拒否感が、ふれあいへの意欲を持ちづらくさせたり、その価値を感じづらくさせたりしていると考えられる。

しかし、赤ちゃんとのふれあいに意欲的でない13名のうち、残りの6名は「どちらかといえば大切」「大切」を選択している。これは、赤ちゃんとのふれあいには意欲的ではないものの、その重要性を感じている中学生がいるということである。これらの中学生の多くは、赤ちゃんとのふれあいに対して意欲的でない理由として「泣かれたらどうしていいかわからない」「傷つけてしまいそうだから」等、ふれあう際の不安を挙げている。これは、赤ちゃんを大切に思うからこそ生まれる不安とも考えられる。それでも赤ちゃんとのふれあうことを大切だと思っている理由については、「自分も将来、触れ合うことが多くなるかもしれないから」「命の尊さを再認識できるから」との記述があった。以上のことから、中学生が赤ちゃんとのふれあうこと自体に不安を抱えている場合、ふれあいに価値を感じていても、その意欲が低くなる場合もあるといえる。つまり、赤ちゃんとのふれあいに意欲的でないことと、赤ちゃんの存在や赤ちゃんとの関わりに対する否定的な感情は、必ずしもつながることが明らかとなった。言い換えると中学生は、赤ちゃんの存在を大切に思うからこそ、赤ちゃんとの関わりに不安を覚えることがあり、赤ちゃんとのふれあいに意欲的でなくても赤ちゃんを自分と無関係な存在と捉えているとは限らないということである。

また、赤ちゃんとして「どちらかといえばふれあいたくない」「ふれあいたくない」と回答した中学生だけでなく、「どちらかといえばふれあいたい」と回答した中学生の中にも、「泣かせたら困る」「上手く触れ合えないかもしれない」というように、赤ちゃんとのふれあうことに対する不安が見受けられたことから、中学生が赤ちゃんとのふれあうことに對し漠然とした不安を抱えていることが窺える。赤ちゃんとのふれあう経験が少ないことが不安の要因となっている場合、実際の赤ちゃんと交流する経験をすることで不安感を和らげることが想定される。地域社会でのつながりが希薄化している現状を踏まえれば、学校教育の中で赤ちゃんとのふれあう機会を保障する赤ちゃんふれあい事業が、赤ちゃんに対する不安感を軽減することにつながる可能性もある。

次に、「赤ちゃんに触れ合うことは、あなたにとって大切なことか」と尋ねた質問に対しては、68名(85.0%)が「大切」「どちらかといえば大切」と回答し、12名(15.0%)が「どちらかといえば大切でない」「大切でない」と

回答した(表4)。《大切》《どちらかといえば大切》と回答した68名の内28名(41.2%)、《どちらかといえば大切でない》《大切でない》と回答した12名のうち2名(16.7%)が、小学生の時の赤ちゃん事業に参加したことがあると答えている。

赤ちゃんとのふれあいを大切だと考える理由を分析したところ、5のカテゴリ、12の焦点コード、19のオープン・コードに分類された(表5)。その理由としては、将来の自分の子

育てや保育士等の職業に就くのに役に立つという【赤ちゃんとのふれあい経験の将来での有用性】に関する回答が最も多かった。これは令和4年度の調査結果と同様である²⁾。次に多かった回答は、赤ちゃんや赤ちゃんとの関わり方を学べる、赤ちゃんとの触れ合いを通して自分の育ちを学ぶ等の【赤ちゃんとのふれあいを通して得られる学びや経験】に関するものであった。これらのことから、中学生は赤ちゃんとのふれあいを、将来のために必要な知識を得たりや赤ちゃんについての理解を深めたりする等の学びの機会としてとらえていることがわかる。つまり、多くの中学生は赤ちゃんといふことは自分の人生にとって無関係なことだと捉えておらず、人生設計の中に“子育て”が位置付けられているといえる。

表4. あなたにとって赤ちゃんといふことは大切か

選択肢	回答数(割合)
大切	39(48.8%)
どちらかといえば大切	29(36.3%)
どちらかといえば大切でない	6(7.5%)
大切でない	6(7.5%)

表5. 中学生が赤ちゃんといふことを大切だと考える理由

※オープン・コードは一部抜粋

【カテゴリ】	【焦点コード】	<オープン・コード>
赤ちゃんとのふれあい経験の将来での有用性(32)	自分の将来やなりたい職業にふれあい経験が必要(15)	将来必要になる知識を得られる(11) 自分の将来や職業に関わる(4)
	自分が子育てをする時に役立つというイメージ(14)	自分が親になった時のため(14)
	今後のふれあいに役立てられるというイメージ(3)	今後、赤ちゃんといふ機会があるかもしれない(3)
赤ちゃんとの触れ合いを通して得られる学びや経験(21)	赤ちゃんとのふれあいを通して得られる学び(15)	赤ちゃんについての理解ができる(8) 赤ちゃんとのふれあいを通して何か学ぶことがある(3) 赤ちゃんとの関わり方を学べる(2) 赤ちゃんとのふれあいを通して自分の育ちを学んだり考えたりする(2)
	赤ちゃんとのふれあいが自分にとっての経験となる(6)	日常にない経験ができる(6)
赤ちゃんや赤ちゃんとの関わりを感じる心地よさ・楽しさ・好意(14)	赤ちゃんとのふれあいで得られる癒しや安らぎ(9)	癒しや心の安らぎになる(9)
	赤ちゃんとのふれあいで感じる楽しさや喜び(4)	赤ちゃんとのふれあいを楽しいと思う気持ち(3) 成長の過程を見る喜び(1)
	赤ちゃんに対する好意的な感情(1)	赤ちゃんが好きだという気持ち(1)
赤ちゃんの存在や命を尊重する思い(10)	赤ちゃんや赤ちゃんとの関わりを大切に思う気持ち(5)	赤ちゃんを大切に思う(4) 小さい子とのコミュニケーションを重視(1)
	命について感じたり考えたりする機会(3)	命の大切さを考えるきっかけになる(2) 命を感じられる(1)
	生命としての赤ちゃんに対する思い(2)	赤ちゃんには命がある(2)
赤ちゃんといふことの是非に対する中立的な感情(1)	赤ちゃんといふことの是非に対する中立的な感情(1)	赤ちゃんといふことは悪いことではない(1)

また、【赤ちゃんや赤ちゃんとの関わりを感じる心地よさ・楽しさ・好意】の回答からは、中学生にとって赤ちゃんに関わることは快に当たる経験となっていることがわかる。さらに、【赤ちゃんの存在や命を尊重する思い】からは、中学生が赤ちゃんや命を大切なものとして捉えていることが窺える。これらの結果から、アンケートに回答した中学生の多くは、知識や経験、心地よさ等赤ちゃんとのふれあいによって得られるものがあると考えているといえる。

また、赤ちゃんとのふれあいを大切ではないと考える理由を分析したところ2の焦点コード、6のオープン・コードに分類された(表6)。赤ちゃんとのふれあうことにメリットを感じない、赤ちゃんとのふれあいに興味を感じないといった「赤ちゃんとのふれあいが自分にとって重要なことと思わない」に関する回答と、赤ちゃんとの関わりを望まない、大変さを感じるといった「赤ちゃんや赤ちゃんとのふれあいに拒否感や難しさを感じる」に関する回答があった。赤ちゃんとのふれあうことは大切ではないと答えた12名のうち7名が《赤ちゃんとのふれあいたいかな》という質問に、《ふれあいたくない》《どちらかというふれあいたくない》と回答し、8名は子育てのイメージを「大変」「めんどくさそう」と回答している。赤ちゃんとのふれあうことが自分の将来の子育て等に役立てられたり学びを得たりする機会になると考える中学生が多い一方で、赤ちゃんとのふれあいを大切だと考えていてもふれあいたいとは思っていない中学生や、赤ちゃんとのふれあいに関心をもたない、メリットを感じられない中学生もいることがわかった。

表6. 中学生が赤ちゃんとのふれあうことを大切ではないと考えている理由

【焦点コード】	＜オープン・コード＞
赤ちゃんや赤ちゃんとのふれあいについての必要感や興味のなさ(9)	赤ちゃんとのふれあいの必要性を感じない(3) 赤ちゃんに対する興味を感じていない(3) 赤ちゃんとのふれあうことの大切さがわからない(2) 赤ちゃんとのふれあいに興味を感じていない(1)
赤ちゃんとのふれあいを感じる拒否感や難しさ(3)	赤ちゃんとの関わりへの拒絶(2) 大変さを感じる(1)

(2) 中学生の子育てに対するイメージ

中学生に《子育てにどのようなイメージを持っているか》を尋ねたところ、その回答は、3のカテゴリ、9の焦点コード、17のオープン・コードに分類された(表7)。

最も多かったのは【子育ての大変さ】に関するものであった。内容は、「ノイローゼになる人もいる」「大変で寝不足」等＜めんどくさそうでストレスがたまると＞という「子育てに関する心身の負担」を示す回答や、＜自分の時間が使えないのは楽しくない＞等の「子育てに関する時間的な負担」を示す回答、そして＜いろいろなことにお金がかかる＞という「子育てに関する経済的な負担」についての回答である。さらに漠然と＜大変そう＞と感じている「子育ては大変なことというイメージ」という回答も12件あった。これらの、子育ての負担感に関する回答の中には、「機嫌を取るのが難しそう」「赤ちゃんが泣いたりして大変そう」等、思い通りにならず＜幼い子どもとの関わり方が難しい＞という否定的な印象を示す記述も見られた。

次いで多かったのが【子育てに見出す意義】である。この回答から中学生が、子育てを＜大変だけど楽しいことがある＞ことや＜大変だけど子どもの成長の喜びややりがいがある＞ことに思いを及ぼしていることを窺うことができる。そこには、子育てを「幸せ」「感動」という言葉で表現したり、子どもを「かわいい」「いやされる」存在であると感じたりしている記述があった。これは、子育てや子どもとの関わりを大変なことと感じながらも、肯定的に受け止めているということである。また、子育てを＜責任があり大切なこと＞として、[大変な中にある子育ての重要性]を感じている回答もあった。つまり、子育てを大変なものとして認識したうえで、【子育てに見出す意義】を捉えている中学生もいるということである。

以上のことから、多くの中学生には子育てについてまず、「大変なもの」という印象があり、そこからさまざまな視点で子育てに対するイメージを持っていることが明らかとなった。実際には未体験である子育てのイメージは、周囲の人の様子を見たり話を聞いたりしたこと、何らかの経験をしたこと、メディア等の多岐にわたる情報の影響等から作り上げられたものであると推察される。そして中学生が、周囲の身近な人や社会的な子ども観・子育て観を、

表7. 中学生の子育てに対するイメージ

※オープン・コードは一部抜粋

【カテゴリ】	〔焦点コード〕	<オープン・コード>
子育ての大変さ(56)	子育てに関する心身の負担(31)	幼い子どもとのかかわり方が難しい(15) めんどろでストレスがたまる(8) 等
	子育ては大変なことというイメージ(12)	大変そう(12)
	子育てに関する時間的な負担(12)	子育ては一日中忙しい(7) 自分の時間が取れない(4) 等
	子育てに関する経済的負担(1)	お金がかかる(1)
子育てに見出す意義 (31)	大変な中にある子育ての喜び(29)	大変だけど子どもの成長の喜びややりがいがある(13) 大変だけど楽しいこともある(11) 等
	大変な中にある子育ての重要性(2)	責任があり大切なこと(2)
思い描く子育て像 (17)	子育ての中心的使命(7)	子どもが自立するまで育てる(7)
	子育てを担当する人(5)	夫婦や家族で助け合って子育てをする(4) 等
	子育てをする時の心持ち(5)	愛情、優しさ、厳しさをもって育てる(5)

そのまま自分自身に取り入れているとも考えられる。これらの結果から、中学生が子育てに対してもっている大変なものというイメージを払しょくする、あるいはそれにも勝る肯定的なイメージを醸成していくことが重要であり、これは社会的な課題ともいえる。

IV. まとめ

令和5(2023)年度佐世保市赤ちゃんふれあい事業中学生追跡調査のアンケート結果から、赤ちゃんにふれあいたい、赤ちゃんとうふれあうことは大切なことだと考えている中学生が多いことが明らかとなった。回答者の多くは、赤ちゃんはかわいい、赤ちゃんとのふれあいは心地よい、赤ちゃんとうふれあうことは自分の将来のために大切だと考えている。一方で、赤ちゃんとうふれあうことに否定的な回答の中には、赤ちゃんを落としたり傷つけたりするのが怖い、接し方がわからないというものがあり、赤ちゃんとの関わりに対する不安な気持ちをもつ中学生もいることがわかった。赤ちゃんとうふれあうことに前向きな気持ちをもつ中学生の中にも、ふれあいたいが不安もあるという葛藤を抱えている人もいる。また、子育てに関するイメージとしてもっとも多く挙げられたのは、子育ての負担感や子どもとの関わりの難しさを理由とした子育ての大変さであったが、大変さの中にも子育ての意義を見出している回答も見受けられた。

中学生の多くが、赤ちゃんとうふれあうことを大切なことであると考え、赤ちゃんとうふれあうことは自分の将来の役に立つと考えていた。このことは、赤ちゃんとの関わりを自分の人生に無関係なこととして捉えておらず、人生設計の中に子育てが入っていることを示している。少子化の進行が深刻化している背景には、多くの人が子育てに価値を見出せなくなっていることが挙げられるだろう。その中で、将来の子育てを自分のこととして感じる中学生の存在は、現代の日本社会の中では希望の光であるともいえる。

赤ちゃんとうふれあいたくない、赤ちゃんとうふれあうことが大切だと思わない中学生も、全員が赤ちゃんとうふれあった経験はあると回答している。しかし、自分自身が小さな子どもの時のことであったりごくわずかな回数であったりしているため、赤ちゃんとのふれあいに対する不安や赤ちゃんに対する忌避感をもった、もしくはそれらの感情が払しょくされる機会がなかったということが考えられる。令和5年度佐世保市『赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業』アンケート調査に関する報告書³⁾において、赤ちゃんにふれあうことに前向きな気持ちをもっていなかった小学生が、複数回の赤ちゃんとの関わりを経て赤ちゃんとうふれあって成長を見たいという気持ちをもつようになった事例が紹介されている。赤ちゃんとのふれあいに否定的であった中学生も、ふれあいの回数を重ねることで赤ちゃん

への苦手意識や赤ちゃんとの関わりに対する不安が軽減され、その結果赤ちゃんとのふれあいに意義を見出したり、子育てに対して良いイメージをもつようになったりする可能性もある。また、小学生や中学生は、実際に子育てをする年齢になるまでの間に様々な経験を積む。小学生や中学生の時期に、赤ちゃんとのふれあいを通して赤ちゃんに対する具体的なイメージをもつことが、赤ちゃんとの関わりに対する不安や赤ちゃんへの忌避感をすぐに解消するものではなかったとしても、事実として赤ちゃんの姿を知ること、この先の経験と併せて赤ちゃんや子育てへの見方が変わることも考えられる。また、赤ちゃんに肯定的な思いを抱くと同時に不安や葛藤を抱える中学生が、実際に赤ちゃんとのふれあい、赤ちゃんを知ること、その不安や葛藤が軽減することも考えられる。このことについて、本事業における赤ちゃんとのふれあいや子育て中の保護者の話を聞く実体験が、将来的に前向きな子育て観を育む一助となる取り組みであるのか、縦断的に検証することが望まれる。

赤ちゃん事業を経験した中学生の多くが、赤ちゃんとのふれあいに前向きな気持ちをもっていたり意義を見出したりしていることは、事業の一つの成果であるといえるだろう。そうであるならば、現在は赤ちゃん事業に取り組んでいない地域にも赤ちゃん事業を広げることは有意義であるといえる。また、昨年の報告書でも述べたように、この事業を小学生の1回だけのものではなく、中学生・高校生も経験できるような長期的な事業にすることによって、児童生徒がもつ赤ちゃんや子育てについての意識・印象をより肯定的なものに変化させる可能性もあると考えられる。現時点では赤ちゃんとのふれあいに前向きな気持ちをもっていない人や子育てにマイナスなイメージをもっている中学生の存在が明らかになったが、彼らがこのような気持ちになる背景には何があるのかということを明らかにするためにも、事業を継続し、事業の長期的効果を検証することが必要である。

このように、佐世保市における赤ちゃん事業は一定の意義を有するものであるといえるが、令和2年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、対面での開催ができない時期があった。今後は、小学生の頃コロナ禍にオンラインで赤ちゃん事業を経験した中学生を対象に調査研究を行い、対面での事業を経験した中学生との比較から赤ちゃん事業の効果や意義について検討を行う。

脚注

- 1) 佐藤郁哉(2008)「質的データ分析法—原理・方法・実践」新曜社
- 2) 門田理世他「赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業に関する調査研究」令和5(2023)年度 佐世保市との包括的連携協定事業報告書、p.62
- 3) 前掲書2)、pp19-38
- 4) 花沢成一(1992)「母性心理学」医学書院、p.241

中学生追跡調査アンケート項目																																																																																																																																																							
問1	「赤ちゃん」と聞いて何を思い浮かべますか？(自由記述回答)																																																																																																																																																						
問2	赤ちゃんといふれあう機会があったとしたらあなたは赤ちゃんといふれあってみたいですか？(選択肢) そう考える理由もあわせて教えてください(自由記述回答)																																																																																																																																																						
問3	あなたはこれまでの人生で、赤ちゃんを触ったり、赤ちゃんに関わったりする機会がありましたか？(選択肢) あると答えた人は、いつ、誰と、どれくらい、関わりましたか？																																																																																																																																																						
問4	赤ちゃんといふれあうことはあなたにとって大切なことですか？(選択肢) そう考える理由も教えてください(自由記述回答)																																																																																																																																																						
問5	あなたの性別・きょうだい構成・出身小学校を教えてください																																																																																																																																																						
問6	あなたは「子育て」にどのようなイメージを持っていますか？(自由記述回答)																																																																																																																																																						
問7	あなたは小学校時代に「赤ちゃんふれあい事業」に参加した経験がありますか？(選択肢) あると答えた人は、今でも印象に残っていることを教えてください(自由記述回答) 赤ちゃん事業をきっかけに、赤ちゃんに対するイメージは何か変わりましたか？(選択肢) 変わったという人は、何が変わったか教えてください(自由記述回答)																																																																																																																																																						
評価	現在あなたは赤ちゃんにどのようなイメージを持っておられますか？下記の評点表の各項目で、あなたの気持ちに合うものを一つ選んでください(花沢⁴⁾の評定表から引用) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>非常にそのとおり</th> <th>そのとおり</th> <th>少しそのとおり</th> <th>そんなことはない</th> <th></th> <th>非常にそのとおり</th> <th>そのとおり</th> <th>少しそのとおり</th> <th>そんなことはない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あたたかい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>あかるい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>よわよわしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>なれなれしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>うれしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>あまい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>はずかしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>めんどくさい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>すがすがしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>たのしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>くるしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>こわい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>いじらしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>みずみずしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>やかましい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>わずらわしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>しろい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>やさしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>あつかましい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>うっとうしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ほほえましい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>うつくしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>むずかしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>じれったい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ういういしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>すばらしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>てれくさい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>うらめしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		非常にそのとおり	そのとおり	少しそのとおり	そんなことはない		非常にそのとおり	そのとおり	少しそのとおり	そんなことはない	あたたかい					あかるい					よわよわしい					なれなれしい					うれしい					あまい					はずかしい					めんどくさい					すがすがしい					たのしい					くるしい					こわい					いじらしい					みずみずしい					やかましい					わずらわしい					しろい					やさしい					あつかましい					うっとうしい					ほほえましい					うつくしい					むずかしい					じれったい					ういういしい					すばらしい					てれくさい					うらめしい				
	非常にそのとおり	そのとおり	少しそのとおり	そんなことはない		非常にそのとおり	そのとおり	少しそのとおり	そんなことはない																																																																																																																																														
あたたかい					あかるい																																																																																																																																																		
よわよわしい					なれなれしい																																																																																																																																																		
うれしい					あまい																																																																																																																																																		
はずかしい					めんどくさい																																																																																																																																																		
すがすがしい					たのしい																																																																																																																																																		
くるしい					こわい																																																																																																																																																		
いじらしい					みずみずしい																																																																																																																																																		
やかましい					わずらわしい																																																																																																																																																		
しろい					やさしい																																																																																																																																																		
あつかましい					うっとうしい																																																																																																																																																		
ほほえましい					うつくしい																																																																																																																																																		
むずかしい					じれったい																																																																																																																																																		
ういういしい					すばらしい																																																																																																																																																		
てれくさい					うらめしい																																																																																																																																																		